

4. 平成24年度研究ニーズ調査結果と課題化の経過

| No | 試験研究要望項目 | 試験研究機関等の意見 | 平成24年度実施課題名 平成25年度実施予定課題名 (平成25年2月現在) |
|----|--|--|---|
| 1 | パンへの加工適性の高い(強力粉用)小麦の生産振興の促進 | 現在、レボ事業にてラーメン用適正の優れた品種開発を進めている。今後も、国、道の研究機関で双方協議の上、最適な体制を維持し栽培法ならびに品質についても継続して研究を進める(A)。課題を進める中で6次産業化に向けた情報も明らかにされることが期待されるが、生産・加工・消費の連携構築については、関係機関と協議しながら進める。 | 道産小麦の用途拡大に向けた「ゆめちから」の高品質安定生産及びブレンド指針の策定(重点H24-26) パン用小麦のブランド品種「ハルユタカ」の改良と品質評価による需要拡大(公募型H24) |
| 2 | 実需者ニーズに応えた小麦の品種開発と農家経営の安定に係る試験研究 | 栽培技術については、「道央・道北地域における秋まき小麦の窒素施肥技術の総合化」(H22-24)において、さらに改善された施肥法を検討中である。また、硬質系秋まき小麦品種の栽培技術については、新品種「北見85号」の栽培試験の課題化を検討中である(A)。 | 道産小麦の需要を拡大する次世代品種の開発促進と生産安定化(受託(民間)H25-27) |
| 3 | 檜山地域における秋まき小麦「きたほなみ」の安定多収栽培法の確立 | 現在、普及センターが試験圃を設置し試験場が支援しているおり、気象要因と登熟との関係解明、播種量・時期や分追肥の時期・量など栽培条件が収量に及ぼす影響解析などの予備調査を基に、研究課題化について検討中である(A)。 | |
| 4 | ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種馬鈴しょの育成(澱粉原料用) | シストセンチュウ抵抗性品種の普及によるシストセンチュウの被害拡大防止は喫緊の課題であり、関係機関と連携し課題化につなげる(A)。馬鈴しょ育種では、シストセンチュウ抵抗性の付与を必須条件としており、今後育成される品種も全て抵抗性とする。現在、「コナユキ」(H22)の長所を維持しつつ、収量安定性と1個重の改善を目標として品種改良を進めており、有望な「北育20号」並びに北系3系統を検討中している(B)。 | でん粉原料用馬鈴しょにおける低離水率・低リン含有系統の選抜強化(公募型H25-28) |
| 5 | ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種馬鈴しょの栽培体系の確立(澱粉原料用)および野らばえ対策 | シストセンチュウ抵抗性品種「コナユキ」の平均1個重を増やし、野生生えを軽減するとともに収量を安定化するための栽培法(種いも予措法と窒素施肥法等)について、新規課題を検討中である(A)。 | でん粉原料用馬鈴しょ「コナユキ」の安定多収栽培法の開発(公募型H25-26) |
| 6 | アスパラガス伏せ込み促成栽培における根株養成体系(移植時期・養成期間)の改良に伴う施肥体系の確立 | アスパラガス伏せ込み栽培における株養成期間の長期化に対応した試験については、来年度の課題化を検討したが予算化に至っておらず、現在、外部資金へ応募中である(A)。 | |
| 7 | 夏秋どりトマトを基幹としたハウス内輪作における適正施肥体系の確立について | ハウス内輪作における肥料養分動態の把握、ならびに養分供給量を適切に評価するための土壌診断時期・方法について、関係機関と連携を図り、実態調査を行いながら、試験研究課題化に向けて検討する(A)。 | 施設野菜の輪作体系における施肥対応技術の開発(経常(各部)H25-27) |
| 8 | 十勝地域における低コスト、高収量、高品質な玉葱直播栽培の更なる確立 | たまねぎ直播栽培については「加工・業務用たまねぎの直播栽培における現地実証」(平成22~23)などを参照(D)。販加工業務用たまねぎの安定供給は実需者からのニーズが高い。また、道東では輸入品に対抗できる低コスト生産の可能性があり、対応すべきである。当面は、現地栽培にかかる技術協力を進める(E)。 | |
| 9 | 切り花ダリアの市場クレーム解消法確立 | 課題化に向けて、主要な産地における栽培上の問題点およびクレームの内容、発生時期・程度等を整理するとともに、小売店が求める切り花品質等についても調査を行い平成25年に向け課題化を検討する(A)。 | 市場クレームに対応した切り花ダリアの品質管理技術の確立(経常H25-27) |
| 10 | 北短「楽々栽培ベンチシステム」を利用した花菜類栽培技術の検討 | 開発元の示す栽培法について受託研究を行うか、問題点の解決のための共同研究を行うか、開発元との協議が必要である(E)。 | |
| 11 | パイプハウス利用簡易果菜類栽培システムの実用化試験 | 湛液型簡易養液栽培の予備調査を「簡易養液栽培によるトマト3段密植栽培の検討」(H24)で実施中である(B)。また、トマトを試験対象として技術シーズの検証を行っているが、技術上の問題点を整理することで他品目への応用も可能と考えており、前出の研究結果を待って検討する(E)。 | |
| 12 | 北海道における醸造ぶどうの導入適性と開発 | 地域適応性試験は各メーカーの協力を得た上で各産地で栽培されている品種の実態調査を行い、その結果を基に試験研究課題化を検討する(A)。 | 高級醸造用ぶどう品種の地域適応性と高品質栽培法(経常H25-28) |
| 13 | 早期に地域で活用できる醸造専用品種の栽培適性及び醸造試験 | 地域適応性試験は各メーカーの協力を得た上で各産地で栽培されている品種の実態調査を行い、その結果を基に試験研究課題化を検討する(A)。 | 高級醸造用ぶどう品種の地域適応性と高品質栽培法(経常H25-28) |
| 14 | 土壌中の窒素含量の評価に基づいた飼料作物の施肥対応の検討 | 現在実施中の研究課題(熟度の異なる家畜ふん堆肥の特性解明と飼料用とうもろこしに対する施用法、H23-25年)において、堆肥の肥効評価に基づく飼料作物への活用法に係る結果を基に、土壌窒素診断や堆肥窒素の評価に基づく施肥対応に係る課題立案を進める(A)。 | 新たな品種および栽培法に対応した飼料用とうもろこしの窒素施肥法の確立(H25-28) |
| 15 | サイレージ用とうもろこし施肥の土壌診断基準値及び施肥対応の見直し | 施肥コストの低減や環境保全的な観点からも、土壌診断に基づく適正な窒素施肥法の確立は重要な課題であり、スイートコーンで提案されている、土壌特性や土壌窒素放出量に基づく施肥配分、減化学肥料栽培技術(H10指導参考)等を参考に、検討を進める必要がある(A)。 | 新たな品種および栽培法に対応した飼料用とうもろこしの窒素施肥法の確立(H25-28) |
| 16 | 日高地域におけるベレニアライグラス栽培可能地域の推定について | 現状では現地情報等が乏しくその効果が明確ではないため、優先的な取り組みは難しく、早急な課題化は困難であるが、現地の事例を確認しつつ課題化の可能性を検討したい(E)。 | |
| 17 | 飼料用とうもろこし品種の早晩性の標準化 | 具体的なRM表示統一方法を検討するための試験課題の要求に向けて、関係者等と協議しつつ課題化の準備を進めたい(A)。 | 多様な地域・用途に対応した飼料用とうもろこし安定栽培マップの作成(経常H25-27) |

| No | 試験研究要望項目 | 試験研究機関等の意見 | 平成24年度実施課題名 平成25年度実施予定課題名 (平成25年2月現在) |
|----|--|---|--|
| 18 | 採草地の植生維持および生産性向上のための草種組合せの検討 | 体系的に評価を行った試験はないが、個別の知見についてがあるので、まずはそれらを参考にした体系化と実証について協働活動の進め方等を協議検討させていただきたい。また、既に現地で取組事例があるのであれば関係機関も含め協働活動の推進方法を協議し、対応を検討する(E)。 | |
| 19 | 草地更新前作物の拡大 | 前作収穫後の播種でアルファルファ草地を造成する場合は、播種時期に制限があるため、前作として早期収穫が可能といわれる飼料用麦類(えん麦、ライ麦、極早生大麦)等の利用が想定されるが、現状では飼料用麦類に関する具体的な技術開発の実績は無く、将来的な取り組み課題と考えている(E)。 | |
| 20 | 高品質牧草サイレージ収穫調製技術に向けた課題・対策の検討 | 高水分牧草によるサイレージ調製については「スタックサイロにおける低コスト基盤整備技術および密封技術の確立と実証(H22-24)」を実施中であり、高水分サイレージの品質実態の把握と改善指導については、普及を含めた協働活動の枠組みの中で必要な支援等について協議・検討したい(E)。 | |
| 21 | 自給飼料作付ほ場における踏圧対策 | 課題立案に関しては圃場内の踏圧の影響を整理し普及センターなどと協議の上、今後の対応を協議する(E)。 | |
| 22 | 高水分牧草サイレージにおける適正な圧縮係数およびサイレージ密度の解明と具体的な詰め込み方法の実証 | いくつかの要因が考えられるため、踏圧程度に限定した課題構成は困難と考えるが、現在実施している民間共同研究の中で一部踏圧に関する検討を行う(A)。この結果も踏まえて、高水分牧草におけるサイレージ調製技術の課題化について検討する(E)。 | 高水分牧草サイレージにおける乳酸菌・酵素製剤の添加効果(一般共同H24-25) |
| 23 | 高水分グラスサイレージを利用した乾乳牛飼養方法の確立 | 高水分サイレージの調整(踏圧、乳酸菌添加剤)については、H24から民間との共同試験を進めている(A)。乾乳期については外部資金での課題化を検討する(E)。 | 高水分牧草サイレージにおける乳酸菌・酵素製剤の添加効果(H24-25) |
| 24 | 乳牛の暑熱対策およびその経済評価 | 現地事例の収集を行ない、当面は地域の取り組みと連携して、現地試験での対策検討を支援しながら課題化の可能性を検討する(E)。 | |
| 25 | 預託牧場での子牛導入におけるストレス軽減、管理方法の確立 | 冬期の集団哺育時の哺乳量などについては現在取り組んでいる(A)。 | 乳用雌牛の集団哺育施設における寒冷対策(H24-26) |
| 26 | 育成牛に対する繊維の質及び切断長が発育に及ぼす影響について | 十勝の地域ニーズ「黒毛和種の粗飼料多給育成における低品質乾草の飼料価値向上技術の検討」と併せて、次年度以降を想定した研究課題化に向けて検討する(E)。 | |
| 27 | 黒毛和種の粗飼料多給育成における低品質乾草の飼料価値向上技術の検討 | 多少品質の劣る乾草でもできるだけ有効に利用する技術の開発は、重要かつ緊急性が高い課題であることから、研究課題として早急に取り組む必要がある(A)。 | 黒毛和種去勢育成牛に対する配合飼料の増給速度が粗飼料摂取量および発育等に及ぼす影響(受託(民間)H24) |
| 28 | 黒毛和種は乳期の望ましい粗飼料についての検討 | 粗飼料品質に関する他の育成課題と組み合わせるなど、対応の可能性を検討したい(E)。 | |
| 29 | 和牛素牛の生育モニタリングと肥育成績の関係 | 腹囲データについては、現在、体系化課題等の現地取組の中で地域と連携した育成発育データ調査の一部として収集を行なっているが、小規模な調査にとどまっている。関係機関や普及との連携による取組み拡大等に係る可能性を踏まえ、調査方法・データ解析等に関する積極的な協力・支援を行ないたい(E)。 | |
| 30 | 野生動物から家畜への感染症伝播の予防対策 | 野生鳥類由来感染症の伝播リスクに係る地域における取組方法については大学、行政機関など関係機関と連携しながら検討を進める(E)。 | 野生鳥類由来感染症の伝播リスク評価及び対策手法の開発重点H23-25 |
| 31 | 育成期のマイコプラズマ肺炎罹患牛におけるマイコプラズマ性乳房炎の継発可能性試験 | 呼吸器から乳房への下向き感染の有無などの病態の解明は現在実施中の課題で実施することは困難であり、別途試験課題を立ち上げる必要がある。実施前に検討を必要とする事項が多いため、課題設定まで時間を要するが、実施に向け検討する(E)。 | 牛マイコプラズマ乳房炎の感染実態の解明と防除対策(経常H23-25) |
| 32 | サイレージ中に発生する有害物質(カビ毒等)の検出・対処法について | カビ毒等の発生要因を精査し、解決すべき課題を絞り込むため、普及センターなど関係機関と協議の上、検討を進める(E)。 | |
| 33 | 根室地域でのサイレージ用とうもろこしのカビ毒汚染やすす紋病、根腐れ病を考慮した栽植密度の検証 | 国産飼料プロにて狭畦栽培を含めたとうもろこし安定多収栽培法の試験を実施中であり、狭畦栽培等、栽培管理における要因解析の結果を一定程度評価できると期待される(B)。成績取りまとめ後、新たな試験が必要となれば、別途課題立案を行う(E)。 | 根室地域における安定栽培地帯区分の策定と簡易・安定栽培技術の開発(H22-26) |
| 34 | ナタネ栽培に係る菌核病の対応について | 耕種的対策としては輪作の励行が過去に指導されていた程度で、新たな対策については提示できない。農薬登録については農薬メーカーへの働きかけを行ったが、マイナー作物であることから、農業資材試験の実施については慎重な検討が必要と回答されていたが、現在、農業資材試験(マイナー作物等に関する農薬登録試験)にて試験を実施している。 | 農業資材試験(マイナー作物等に関する農薬登録試験)(受託(民間)H24) |
| 35 | 水稻のイネドロオイムシに対する箱施用剤の防除効果と残効性 | イネドロオイムシの薬剤感受性低下に関しては、一部地域で感受性の低下が疑われる事例があり、次年度以降薬剤感受性検定および有効薬剤の検索を実施する予定である(A)。 | 薬剤感受性低下イネドロオイムシの緊急防除対策(経常24-26) |
| 36 | 大豆採種栽培における種子消毒薬剤の検討 | 現在、種子消毒剤においては様々な病害虫を対象とした複数の薬剤が登場し、さらに現地で防除を必要とする病害虫が異なることからミスマッチが生じている。加えて、採種によっては紫斑病の発生に苦慮している現状があり、新規課題において同病害に対する種子消毒剤の必要性を検討する(A)。個々の薬剤については、過渡的な状況ではあるが各薬剤の特性を見極めつつ、新資材試験や農薬メーカーへの働きかけを通じて検討を重ねたい(E)。 | 大豆の紫斑病防除対策の確立(経常H24-26) |

| No | 試験研究要望項目 | 試験研究機関等の意見 | 平成24年度実施課題名 平成25年度実施予定課題名 (平成25年2月現在) |
|----|---|---|---|
| 37 | 大豆紫斑病防除体系の確立について | 紫斑病害に対する種子消毒剤の必要性および防除対策について検討する(A)。 | 大豆の紫斑病防除対策の確立(経常H24-26) |
| 38 | ミニトマトの「葉かび病」抵抗性打破対策について | ミニトマトにおいてはトマトサビダニ、スリップス類、うどんこ病および葉かび病も含めた総合的な減農薬栽培技術の開発について、他産地の状況などを確認しながら課題化に係る検討を行う(E)。 | |
| 39 | スモモヒメシキイの発生生態および防除対策について | 現地での発生生態と被害の把握を優先し、その結果を基に支援内容および課題化の是非を検討する(E)。 | |
| 40 | 外来帰化植物の拡散防止 | 「北海道ブルーリスト」サイトで分布や参考文献等の様々な情報を得ることが可能(B)。優占圃場に対する地域での取組みに対し、情報提供・技術支援等の支援を検討する(E)。 | |
| 41 | 難防除雑草の駆除対策 | 「北海道ブルーリスト」サイトで分布や参考文献等の様々な情報を得ることが可能(B)。優占圃場に対する地域での取組みに対し、情報提供・技術支援等を検討する(E)。 | |
| 42 | 新得地鶏(北海地鶏Ⅱ)の雛生産に種鶏の飼養方法および冬期飼育技術の確立、コスト軽減を目指し、かつ地域の独自性を出す飼養管理技術 | 雄雌混飼・自然交配を前提とした種鶏場における安定的な雛生産技術の確立が必要であり、H24年度より試験実施中である(A)。冬期飼養技術については「現地簡易施設における北海地鶏Ⅱの寒冷期保温・換気対策」にて種鶏場のコスト低減と併せて今後検討する必要があることから事例調査を行っているところであり、これらの結果を基に、課題化を検討する(E)。低コスト化については関係機関と協議しながら課題化を検討する(E)。 | 北海地鶏Ⅱ種鶏の自然交配法による安定的な素雛生産(経常H24-26) |

「評価分類」は、次のとおり(A)～(G)で評価した。
A: 速やかに研究課題として検討する
B: 現在取り組んでいる
C: 類似課題等で要望を反映させることが可能
D: 研究成果があり、情報提供や技術指導が可能
E: 今後の研究課題として検討